



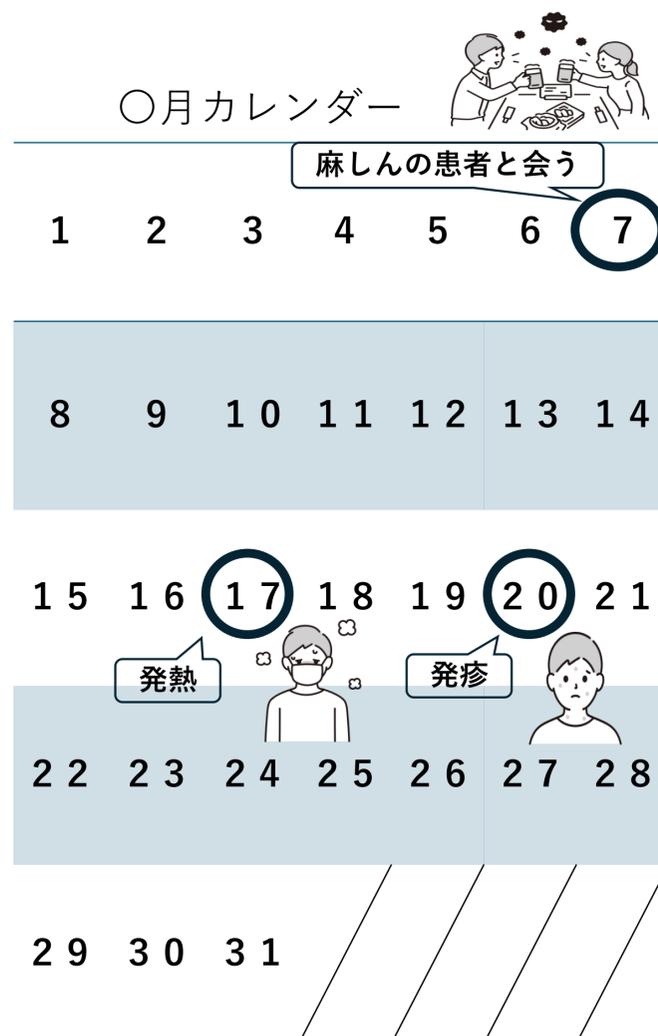
麻疹（はしか）の患者さんと接触した方へ

- 麻疹（はしか）は、感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。そのため、麻疹の患者さんと接触した方のうち、免疫を持っていない方は麻疹に感染した可能性があります。
- 麻疹（はしか）の症状の特徴などを踏まえ、健康状態にご注意ください。

1 麻疹について

- 感染してから発病するまでの潜伏期間は10日～12日（最長21日間）といわれており、患者さんと接してもすぐには発病しません。
- 発病すると、38度前後の発熱が2～4日続き、倦怠感、上気道炎（咳、鼻水、くしゃみ）、結膜炎症状（結膜充血、目やに等）などの症状（カタル症状）が次第に増強していきます。
- その後、一旦は解熱しますが、再び高熱が出ると同時に全身に発疹が出ます。発疹は頸部、前額部から出始め、顔面、体幹、手足に及びます。また、この時期には高熱が続き、症状が強くなります。
- 合併症が無い限り7～10日後には主症状は回復します。
- 麻疹の罹患歴やワクチン接種歴がある方は、修飾麻疹（しゅうしょくましん）といい、潜伏期間が長くなる、高熱が出ないなど、上記のような典型的な症状がみられないことがあります。

麻疹感染から発症までの例



- 麻疹は、症状が出る1日前から感染力があると言われています。
- そのため、この例では、16日から感染力があると考えられ、接触のあった方は体調観察が必要です。

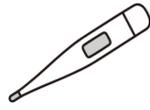
2 麻疹の患者さんと接触した場合

（1）母子手帳を確認し、麻疹ワクチン接種の有無をご確認ください。

- 麻疹ワクチンが含まれる予防接種
 - ・MMR（麻疹、風疹、おたふく風邪ワクチン）
 - ・M R（麻疹、風疹ワクチン）
 - ・麻疹ワクチン



(2) 健康観察に努めましょう



- 毎朝なるべく決まった時間に、体温、カタル症状（咳、鼻水、目の充血）が無いかなどを確認しましょう。
- 健康観察期間は最長21日間（3週間）あり、期間中は健康福祉事務所から、電話や体調入力フォームを送付し、確認を行います。
- 体温が37.5度以上になった場合や、カタル症状が出現した場合は、外出を控え、電話で下記の連絡先、又は医療機関にご相談ください。

3 あなたの健康観察期間について

- 健康観察について

令和 年 月 日（ ）まで、健康観察を行ってください。

- 体温が37.5度以上、咳や鼻水、目の充血などの症状があれば、

加古川健康福祉事務所（保健所）健康管理課

電話（平日）079-422-0002

緊急時（夜間、土日）079-422-0006へ、ご連絡ください。

4 発熱などの症状が出て医療機関を受診する際の注意点

- 麻しんは感染力が非常に強いため、必ず事前に受診先の医療機関に電話連絡し、麻しんの患者と接触のあったことを伝え、受診の時間や方法、待機場所などを確認してください。



電話連絡のポイント

- ① 麻しんの患者と接触したことを伝える
（例：〇月〇日に一緒に食事をしたなど）
- ② 具体的な症状や経過を伝える
- ③ 母子手帳を確認しワクチン接種歴を伝える。

- 受診の際は、可能な限り不特定多数と接触しないよう、公共交通機関の利用は避けてください。
- 体調を崩し救急要請される場合も、必ず事前に麻しん患者と接触があったことを伝えてください。

5 麻しんと診断された場合

- 麻しんと診断された場合、感染症法に基づいて、医師から健康福祉事務所（保健所）へ届出があります。
- 健康福祉事務所は届出を受け、感染症のまん延防止の観点から、病状や発症前の行動歴などについて、訪問や電話などで聞き取りを行いますので、ご協力をお願いします。

